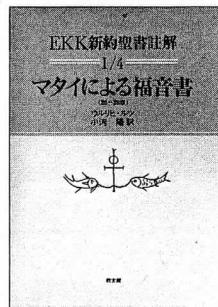


二〇世紀マタイ研究の金字塔、ついに完結

U・ルツ著
小河 陽訳

マタイによる福音書(二六―二八章)

EKK新約聖書註解I / 4



辻学

「本のうさぎ」
2010年2月号
(刊外教文書センター)
20

「とうとう『マタイ』の第四の、そして最後の巻が出来上がった」(一頁)という、著者ウルリヒ・ルツ氏が序文の最初に記した感慨は、訳者である小河陽氏が著者以上に強く覚えているに違いない。二〇〇二年に出版されたEKK新約聖書註解『マタイによる福音書』第四卷(二六―二八章)がここに訳出され、ついに私たちは、二〇世紀マタイ研究の金字塔ともいべきこの註解書を、日本語で全巻読めるようになったのである。第一巻の邦訳が出てからでも十九年。四巻全体でなんと三七〇〇頁を越える分量、しかも細かい議論の続く学術的註解書を小河氏は、長い歳月を費やして、日本語に置き換えてくれた。少しでも翻訳業に携わったことのある人間なら、これがいかに驚異的な仕事であるか、身にしみてわかるであろう。自身の研究時間を大幅に割いてこの訳業を成し遂げられた小河氏には心から感謝したい。

EKK註解の特徴は、聖書テキストがどのように読まれ、受け止められてきたかという「影響史」の観点を考慮していること。従来の解釈を踏まえてつつ分析を施した詳しい解説が付されており、必読である。とくに前者については、巻末の「訳者あとがき」における、著者に対する批判的問いかけも併せて参照されたい。

EKK註解全体に共通することだが、註を読むことも重要な学術的註解書でありながら、縦組みのため、註が全て巻末に置かれてしまい、煩雑に過ぎる。今後発行される巻では思い切った横組みにしても良いのではないだろうか。さらに本書の場合、註がどの本文頁と対応しているのが非常にわかりにくいという難点もある。せめて、英書によく見られるように、「○頁の註」という説明を註部分のヘッダーに入れてほしい。ヘブライ文字が小さ過ぎて見えにくいという点も今後ぜひ改善していただきたいと思う。

(つじ・まなぶ) 広島大学大学院総合科学研究科教授
(A5判・八一六頁・定価二二六〇円(税込)・教文館)

とにあるが、ルツ氏のマタイ註解は、他の著者たちよりもはるかにこの観点を重視し、丁寧に論述していることで知られていた。この姿勢は、受難物語を扱うこの第四巻においてさらに徹底され、美術や音楽、また劇に見られる影響史にまでその視野が広がられている。多くの絵画が実際に印刷され、私たちはその絵を見ながら、著者の解説を読むことができる。惜しいのは、その絵画がモノクロで印刷されていることだが、これは費用の面からややむを得ない(原著でもモノクロ印刷である)。絵画の中に表現された聖書理解を、聖書本文と突き合わせながら味わうという、他の註解書では出来ない楽しみを、ぜひ教会の聖書研究や、学校の授業などでも分かち合っていたきたいと思う。

影響史に重点を置く著者の観点は、聖書解釈の多様性を受け入れる姿勢へとつながる。この註解を読み進む中で私たちは、聖書のテキスト(ここでは特に受難物語)が、西欧の文化や精神性にいかに大きな影響を与え、それが「西欧のキリスト教世界」を形作ってきたかを知る。それは普遍的なものではなく、西欧という文脈に固有のものであり、アジアやアフリカでは別の影響史とキリスト教の形態があり得る。註解という学問的作業ですら、その文脈と無縁ではない。その強い自覚が、この第四巻からは、第三巻までよりも一層強く見て取れる。とはいえ、著者の註解の立場は、最初から一貫して歴史的・批判的なものであり、「マタイ本文の意味の指向性」(一一三三頁)とも表現されているが、福音書の著者自身が意図するところを追求する、伝統的な視点が軸とされている。影響史における諸解釈は、その「テキストの的」(一一三頁)との距離で評価されており、全ての解釈に同等の権利が認められているわけではない。その点でルツ氏の立場は、解釈の多様性を大前提とする、いわゆる文芸論的解釈とは明らかに一線を画している。本書には、聖書本文の詳細な註解の他、「大審院におけるイエスの訴訟審理」および「ユダ」について、問題点を整理し、



小野村林蔵

日本伝道二代目の苦難

山田 滋
Shigeru Yamada



日本の福音宣教、
教会形成の閉塞状態が
叫ばれて久しい――。
主のご栄光のために励んだ
日本宣教二代目の
牧師の困難を研究することは、
この課題に益するであろう。

四六判・上製

定価 1,890 [本体1,800+税] 円
ISBN978-4-86325-016-1



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp